

### 3. 「四天王寺式伽藍配置」とは

四天王寺の中心伽藍は、「四天王寺式伽藍配置」と呼ばれています。

四天王寺式伽藍配置は、南側から北側に向かい、中門（仁王門）、五重塔、金堂、講堂が一直線に配され、それらを回廊が囲んでいるのが特徴で、中国や朝鮮半島の寺院の様式を汲んだものと考えられる、日本の飛鳥時代の代表的な伽藍配置の1つです。

現存する四天王寺式伽藍配置の寺院はあまりありませんが、四天王寺と同じく聖徳太子が創建した、奈良の法隆寺の創建当初の西伽藍も、かつては四天王寺式伽藍配置だったと考えられています。創建以降、何度か再建されながらも保たれてきた四天王寺の中心伽藍や周辺の堂宇は、1945年（昭和20年）の大阪大空襲でほぼ全焼という大きな被害を受けましたが、1963年（昭和38年）以降、中心伽藍を皮切りに、次々と再建され、今に至っています。

石鳥居（石ノ鳥居）、六時堂、五智光院、元三大師堂、湯屋方丈など、空襲の被害を免れ、江戸時代の再建時の姿を留めているものについては、その多くが重要文化財に指定されています。

### 4. 四天王寺の拝観所要時間と回り方（参拝方法）

#### 1) 四天王寺の拝観所要時間

四天王寺の境内の面積は、約33,000坪（約11万㎡）で、これは甲子園球場総面積（約38,500㎡）の約3倍という広さです。

四天王寺のホームページによりますと、中心伽藍+宝物館が約40分、本坊庭園が約20分、つまり有料エリアだけで約1時間ということです。

ただ、実際は、それ以外の堂宇を完全に無視して歩くわけではない場合がほとんどでしょう。境内を1周するのであれば、時間をかけて見ている人が多いです。

有料エリアだけなら1時間半、それ以外もゆっくり見るなら、休憩所で一息つきながら、2~3時間かけて散策してみてもいいかもしれません。

一度に全部見ようとするとも1日がかりになるので、時間が限られている場合は、見たい場所をいくつか決めておくと良いでしょう。休憩所などで境内図をもらえますので、道に迷う心配はありません。

#### 2) 四天王寺の回り方

四天王寺に、正しい参拝順序というものの特になく、目的に合わせて、参拝したいお堂から行けば良いことになっています。

まず、石ノ鳥居・西大門（極楽門）から境内に入ったら、西重門から有料の伽藍に入り、四天王寺の中核である金堂にお参りするのが良いでしょう。

それから、回廊外に出て、時計回りに境内を巡ってみてもいいかもしれません。

本坊・庭園（極楽浄土の庭）は、有料ですが一度は拝観されては如何でしょうか。